

こども往還機

子どもから出発して子どもに戻ってくる教育をめざすスペースシャトル

さがみ風っ子 教師塾

第10期

平成31年2月27日

第2ステージ

相模原市教育センター

<http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kyoushijyuku/>

教師塾 第2ステージへ

塾長、専任講師、外部講師、現職教員など
多彩な講師陣が塾生の学びを支えます！

このステージは、「教師に必要な資質・能力について理解を深める」をテーマとして、多くの外部講師を招いて行いました。講義や協議を通して、今日的な課題を踏まえた学びを深めています。

11月17日
第4回

【講義】現職教員の実践

清新小学校 上野 竜一 教諭
相模丘中学校 横山美沙紀教諭

上野先生は、「良い授業」「良い先生」の考え方が大きく変わってきたそうです。現在は子どもが生き生きとしている教室をめざし、仕掛けのある学習を心がけていました。

横山先生は、中学生の発達段階に応じた接し方や、教師のやりがいについて、エピソードを交えお話しいただきました。また、塾生の質問にもお答えいただきました。



上野教諭



横山教諭

【講義】教師の資質・能力を高めるために

田中 秀典 専任講師

「学級づくりと授業づくり」についての講義でした。充実した学級経営のためには、児童生徒理解や授業づくりが大切であることの理解を図りました。続いて、小学校4年生社会科の「神奈川県学習」を例として、単元全体を見通した学習計画をたてていくことについて、演習を交えて学びました。

学級経営の柱

- ・児童・生徒指導
- ・学習指導

授業づくりのポイント

学習指導要領を読み解き、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を構想



田中専任講師

12月1日
第5回

【講義】現職教員の実践

津久井中央小学校 水藤康子総括教諭
麻溝小学校 橋本千恵養護教諭

支援教育コーディネーター、児童支援専任教諭を務める水藤先生は、様々な子どもの状況を理解し支援へとつなぐ大切さをお話しいただきました。

橋本先生には、養護教諭の役割と職員間の連携のポイントを説明いただきました。また、アレルギー対応に使用するエピペンについて、演示がありました。



水藤総括教諭



橋本養護教諭

【講義】今日的課題解決に向けた取組

青少年相談センター 水野 正人 担当課長
飛矢崎明美 担当課長

相模原市が推進する支援教育や、みんなが同じ場で学ぶことをめざすインクルーシブ教育の考え方をわかりやすく説明していただきました。

後半は、今日的課題の一つである不登校を取り上げ、現状やその背景、未然防止のポイントについて、解説いただきました。欠席が続いた子どもへの手紙や言葉かけについて、演習を通して学びました。



水野担当課長



飛矢崎担当課長

【パネルディスカッション】
今日的課題解決に向けた取組



テーマ

～これからの時代に生きる 子どもたちに 育んでおきたい力～

子どもが楽しく学び、生き生きと成長をするためには、どんな力が必要でしょうか。また、学校・家庭・地域はどのような取り組みをするべきでしょうか。4名の方をパネリスト、的川塾長をコーディネーターとして、パネルディスカッションを開催しました。

まず、小学校・中学校での子どもたちの現状や課題、地域や保護者の状況、市が取り組んでいることなどの報告がありました。

その後、「心をプラスに動かすときめく力」「人間関係を良くするコミュニケーション力」「子どもの自己肯定感を高める保護者の関わり方」「小中学校が一貫して取り組む未来を切り拓く力」「子どものよりよい遊び」などをキーワードとして協議を深めました。

塾生は協議に加わりながら、大きな枠組みの中で子どもたちを育てることの大切さなど、視野を広げる機会となりました。



学校教育課
佐藤由起指導主事



市 PTA 連絡協議会
神谷昌義会長



東林中学校
鈴木孝博総括教諭



中央小学校
大木真理副校長



コーディネーター
的川泰宣塾長

【講義】教師の資質・能力を高めるために

高田 恵子 専任講師

私たちは、日常的に「人権」に関する課題に直面することがあります。その時にどのように考え、行動しようとするか、基となる人権感覚を養う講義でした。

アクティビティを通して、人が育った環境、生活上受けている支援、心の状況など、さまざまな視点で考え、接することの重要性が協議されました。

学校における人権教育は、自分の大切さとともに、他人の大切さを認めることを基本的考えとして、実施されています。



「子どもの権利条約」の4原則

- 差別をしないこと
- 子どもの最善の利益を図ること
- 生命・生存・発達の権利を守ること
- 子どもの考えを尊重すること

塾生の感想

パネルディスカッションでは、相模原市は保護者が学校に対して協力的であることや、家庭と学校での連携が必要であり、地域を巻き込んだ活動ができるかどうか問われていることは、もっともだと思います。経験から興味・関心をもつことは、生きる力を育むために、不可欠であると感じました。

（「人権」の講義では、人には様々なバックグラウンドがあり、それぞれの思いを持って生活していることを考えた。子どもの事情や情報だけで決めつけず、自分の視野を広げ、寄り添う形で成長を支えたいと思った。

【講義】教師の資質・能力を高めるために 五十嵐広行 専任講師

新年1回目となるこの日の午前は、教育に関する様々な調査結果やデータから、全国や相模原の子どもの状況について考える講義でした。数値の推移の原因や背景を探ろうと、グループ内で互いの考えを伝え合いました。

- ・暴力、いじめ、不登校の発生件数の推移
- ・全国学力・学習状況調査の結果
- ・発達障害への支援や、児童虐待の防止

後半は、これらの状況を踏まえた、小中一貫教育の推進、体験学習の充実、学校と警察の連携、「チーム学校」の構築など、相模原市の取り組みについても、しっかりと学びました。



【演習】 教師に必要な資質・能力について考える

第2ステージのまとめとして、教師の資質・能力をどのように高めていくべきかを論作文にまとめ、班別協議を行って、考えを深めました。



朝の会

教師塾にも日直があります。朝の会の企画・運営を担当し、挨拶やスピーチ、クイズやミニゲームなどを行っています。15分の短い時間ですが、和やかな雰囲気がつくられています。



第2ステージを終えて(抜粋)

塾生の振り返り

あっという間に第2ステージが終わってしまいました。現職の先生方からのお話が多く、沢山のことを考えることができ、教師に必要な資質・能力について理解を深めることもできたと思います。

養護教諭の「気づく力」と「つなげる力」の重要性を再認識しました。保健室の来室理由や頻度から、問題の早期発見が行われ、コーディネートとしてつなげることを、今後自分の中の軸として学んでいきたいです。

専任講師の助言

学校は「教室(学びの場)」と「職場」という二つの顔を持っています。「内から」と「外から」いろいろな見え方や考え方があり、集合体として、望ましい環境をみんなで模索しているのが学校です。子どもの状況により、アプローチも様々です。楽しい学校にするため、まずは授業づくり。第3ステージがんばってください。